

6 月中下旬出荷向けの赤紫色コギク新品種「常陸サニールビー」		
<p>[要約]</p> <p>「常陸サニールビー」は 6 月中下旬出荷向けの赤紫色品種である。大きな特徴は濃い赤紫色の花色で、生産者と市場関係者の評価が高い。切花長は「玉姫」よりやや短く「夏あそび」よりも長い。花径は「夏あそび」より大きく「玉姫」並である。</p>		
農業総合センター 生物工学研究所・園芸研究所	成 果 区 分	普 及

1. 背景・ねらい

茨城県のコギクは、県内の切り花出荷品目では産出額が第 1 位、全国においても栽培面積が第 2 位、出荷量が第 3 位のシェアを占め、重要な花き品目となっている。主な作型は、7 月東京盆、8 月旧盆、9 月彼岸の物日出荷である。生産現場と市場関係者からは、茨城県産の出荷時期の拡大のため、物日出荷に加えて、物日前後に出荷できる新品種の育成が要望されている。そこで、市場から求められている頂点咲きの草姿で、物日前の 6 月に出荷可能な県オリジナル品種を育成する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 平成 15 年に「玉姫」を種子親とし夏ギクの混合花粉を交配し、得られた 68 の実生個体から選抜した品種である (図 1)。
- 2) 花色はRHSカラーチャートで59Bの赤紫色で、深みのある濃い色が特徴である (図1、表1)。
- 3) 開花時期は6月中下旬であり、「夏あそび」と同程度で、「玉姫」よりも7日程早い (表 1)。
- 4) 切花長は「玉姫」よりやや短く、「夏あそび」よりも長い。花径は「夏あそび」より大きく、「玉姫」並である (表1)。
- 5) 現地試験は、花色の評価が特に高く、病虫害発生が少なく作りやすいという評価である。切花長とボリュームは試験年により評価がやや劣るが、6 月のコギクとしては許容範囲である (表 2)。また、無加温ハウスの現地試験において、5 月上旬開花が認められ、茨城県の出荷開始時期に対応できる品種である。
- 6) 市場評価は、ボリュームがやや欠け、花がやや大きくスプレー品種と競合するという欠点はあるものの、花色の評価が高く、総合評価は普通よりやや良い (表 3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 平成 23 年 3 月 2 日に品種登録された (登録番号 第 20404 号)。
- 2) 育成時の系統番号は「ひたち 6 号」および「生研 7 号」である。
- 3) 県内全域で栽培できるが、表 1 の特性値は笠間市安居におけるものである。
- 4) 種苗は、(社)園芸いばらき振興協会を通じて、県内配布予定である。

4. 具体的データ

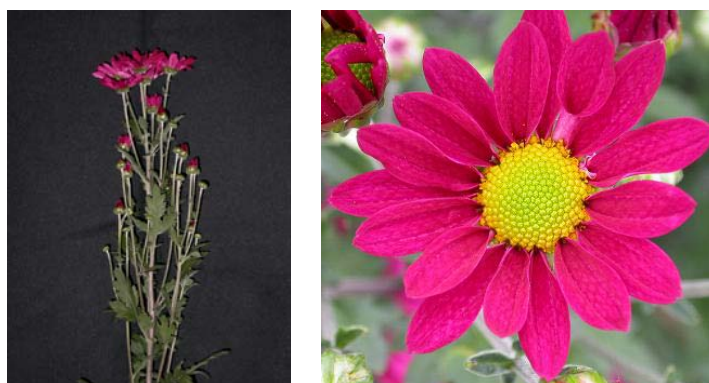


図1 コギク「常陸サニールビー」

表1 コギク「常陸サニールビー」の特性（試験：平成20年、笠間市安居）

品種	花色 (RHS) ¹⁾	開花 始～終 (月・日)	切花 長 (cm)	切花 重 (g)	節数 (節)	分枝 数 (本)	花 蕾 数 (輪)	花径 (cm)
常陸サニールビー	赤紫 (59B)	6.15～6.25	73.7	50.2	21.2	8.0	24.1	4.7
夏あそび	赤紫 (59B)	6.17～6.25	68.5	37.0	23.8	8.0	14.7	3.7
玉姫	赤紫 (70B)	6.24～7.2	83.3	61.3	27.8	9.6	17.5	4.9

1) RHS カラーチャートによる。

表2 現地試験におけるコギク「常陸サニールビー」の生産者評価

試験年	導入希望 有：無	総合 評価	収量	作り やすさ	病虫害 発生	切花 長	花色	花質	茎葉 色	ボリュー ーム	草姿
平成19年	3：0	3.3	3.3	3.3	3.3	2.7	4.7	3.7	3.7	3.7	3.0
平成20年	2：1	3.7	2.8	3.8	4.5	3.3	4.3	3.3	3.3	2.8	—

注) 生産者3名による評価。総合評価・作りやすさ・切花長・花色・花質・茎葉色・ボリューム・草姿；1：極劣，2：劣，3：中，4：良，5：極良。収量；1：極少，2：少，3：中，4：多，5：極多。病虫害発生；1：甚，2：多，3：中，4：少，5：無。

表3 コギク「常陸サニールビー」の市場評価（試験年次：平成19年）

花色	花の大きさ	花の形	花数	茎葉の色	ボリューム感	草姿	総合評価
良い	普通	普通	普通	普通	やや悪い	普通	やや良い

注) 評価者数は16名。評価者の結果を良い、やや良い、普通、やや悪い、悪いの5段階化した。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- 1) 本県小ギク産地活性化のためのブランド品種の育成・平成14～平成19年度・生物工学研究所果樹・花き育種研究室
- 2) 新品種育成普及促進事業・平成6年度～・生物工学研究所果樹・花き育種研究室
- 3) 新品種育成普及促進事業・平成19年度～・園芸研究所花き研究室